

渡名喜県立自然公園

指 定 書

平成9年8月

沖 縄 県

目 次

| | |
|---------------|----|
| 1. 指定理由 | 1 |
| 2. 地域の概要 | 2 |
| (1) 景観の特性 | 2 |
| ア. 地形・地質 | 2 |
| イ. 植 生 | 2 |
| ウ. 野生動物 | 3 |
| エ. 人文その他の特性景観 | 3 |
| (2) 利用の現況 | 5 |
| (3) 社会経済的背景 | 6 |
| ア. 土地所有 | 6 |
| イ. 人口及び産業 | 6 |
| ウ. 権利制限関係 | 9 |
| 3. 公園区域 | 11 |

1. 指定理由

渡名喜島は、沖縄本島の西方約58kmの海上に位置し、粟国島、慶良間諸島、久米島を結ぶ海域の三角形のほぼ中央部にあり、位置的には慶良間諸島に次いで那覇に近い島である。

同島の特徴は、

- (1) 地形、地質の骨格が他の離島と著しく異なる。渡名喜島には琉球列島に分布する地層で時代が判明している中では最も古い古生代二畳紀（約2億5千万年前）の千枚岩や石灰岩その他の地層が分布しており、いたる所で奇岩が露出している。そのため、ダイナミックで独特な景観が形成されている。

とりわけ島の東側の長さ200m、高さ80mに及ぶ屏風のようにそそり立つ岩壁と高さ179mの岩山（大岳）は、県内では類のない規模である。

さらに南東部の海岸一帯は、高さ50～170mの断崖となって海にせまっている。

- (2) 集落から丘陵へ至る野道や獣道には、季節を彩る野の草花として薄紫のカワラナデシコ、大輪の白いテリハノイバラ、可憐な釣鐘状の花を咲かせるサイヨウシャジン、夏のキバナノヒメユリなど季節に応じて様々な花が咲く。これらは渡名喜島の自然景観の中で目を楽しませる重要な景観要素となっている。さらに、これらが季節ごとに見られることから、身近な自然観察に適した環境となっている。

このほか渡名喜島にはタイワンビロードシダ、ヒトツバマメツタ、トゲイボタ等植物地理学上貴重な植物が生育している。

- (3) 人文資源において、他に類をみない特徴がある。集落は毎年襲ってくる台風の風を避けるため、ほとんどの屋敷が道路より低く掘り下げられ、屋敷の周囲にはフクギが植えられ、他の離島ではみられない独特な集落景観をなしている。しかも、その屋敷内はどの家も清掃がいきとどき、古き良き時代の名残である砂地の庭に「箒の目」を入れる習慣がまだしっかり根づいている。

また、琉球王朝時代の地割制度の農地が、一部保存されていることも重要な歴史的遺産となっている。

このように渡名喜島には、独特な風景と貴重な植物や人文資源がコンパクトにまとまって存在しており、いわば島全体が野外博物館的な性格を帯びているといえる。

このような特徴のほか、近年は海洋レジャーの普及に伴って沖縄本島から遊漁船やヨットなどで島を訪れる県内客が増えはじめており、今後はこうした海洋レクリエーションの増進を図ることが期待されている。

以上のことから、渡名喜島は沖縄県立自然公園条例の目的である「県民の保健、休養および教化に資すること」が十分可能な地域であり、渡名喜島の自然を適正に保全しつつ効果的な利用を推進するため、渡名喜島を県立自然公園に指定し、地域の振興、県土・自然景観の保全、県民の保健・休養及び教化に資するものである。

2. 地域の概要

(1) 景観の特性

ア. 地形・地質

渡名喜島は沖縄本島の西方約58kmの海上に浮かぶ面積3.46平方kmの島である。

島の地形の特徴は、島の南部と北部の両側が標高約140mから180mの古生岩からなる丘陵地であり、その間に挟まれた低地が砂地で村落となっている点にある。

特に島の大半を占める南部は、古生代の苦灰岩、千枚岩、石灰岩等からなる大岳(179m)、大本田(165m)、ヲモ(151m)、義中山(137m)などが丘陵をなし、その南東側は断崖絶壁となつて海へせまっている。

また、その崖下は、断崖の勾配がそのまま海底へ続いているかのように水深約60m以深までいきなり深くなっている。

一方、島の南部以外の周辺の海岸はリーフで囲まれ、干潮時には干出する広いラグーンとなつており、手つかずのサンゴが棲息している。

さらに、島の北側は集落の背後に農地が広がり、その農地から北側は一つのまとまった西森丘陵(146m)をなし、特異な景観を醸しだしている。

西森の中腹にあたる丘(80m)の上には、里と呼ばれるグスク時代の遺跡があり、島の発祥の地として現在でも村一番の信仰地となっている。その里遺跡(里殿、ノロ殿地)に立つと、島のほぼ全景が見渡せる。特にここから西方を眺めると、手前の対岸に入砂島があり、集落や港の風景とあいまって風情ある景観となっている。

イ. 植生

渡名喜島に生育している植物の種類は、自生植物、帰化植物、栽培植物を含めて124科594種を数えている(渡名喜村誌・1983年)。

島の植生を地区別、地形別に概観すると以下のとおりである。

海岸線の植生は、沖縄諸島に特徴的な海浜植生のひとつである隆起サンゴ礁上の植生の発達は見られないが、砂浜にはハマニガナーハマヒルガオ群落、ヨウボウシバ群落、ハマゴウ群落、グンバイヒルガオ群落、ツキイゲ群落、クサトベラーモンパノキ群落、アダン群落等がある。また、場所によってはカワラナデシコ群落が出現する。

海岸部で古生層の奇岩が露出する断崖部は、一般的に風衝地で乾燥しがちであるが、このような地形にはソテツ群落が広く生育し、厳しい自然環境とのせ

めぎあいが観察される。この景観はダイナミックであり、かつ風雅を感じさせる。

丘陵地の植生は、ほぼ全域にわたって過去に火入れや開墾がなされたため、ほとんどが二次林や代償植生となっている。

これらの丘陵地斜面部にはススキ群落、チガヤ群落、リュウキュウチク群落、リュウキュウマツ群落が分布している。リュウキュウマツ群落はそれぞれの遷移の段階や立地条件等により構成種に若干差異がある。

島の南部、大本田からヲモ岳へかけて東西に走る尾根線部は馬の鞍型の地形をなし、風の通る道となっている。これらの風衝地には、矮小化したリュウキュウマツ林やソテツ群落を出現させている。また、ボタンボウフウ、ハマナタマメ、クサスギカズラ、ヒメクマヤナギ、クロイゲ、イリオモテアザミ、ハマボッス、ハリツルマサキ等海浜に主に生育する植物が山頂付近まで見られる。これらはおそらく風当たりの強い島では潮風が山頂まで吹き上げられるためと思われる。

ウ. 野生動物

渡名喜島の動物相で特筆すべきこととして、昭和45年頃ハブやネズミを駆除する目的で、イタチとインドマングースを導入したことがあげられる。これらはいずれも定着しなかったが、それは島の独自の生態系を保持するという観点からすれば、かえって幸いであったともいえる。

渡名喜島は島の規模および構成から動物相はそれほど豊富ではない。しかし昔からハブの多い島として知られているように、爬虫類の種は比較的多い島である。

これまでに渡名喜島で生息が確認されている動物は、ほ乳類が3種、鳥類が11種、爬虫類が14種、両生類が3種などである。なお、甲殻類および昆虫の出現種については今後の調査が待たれる。

エ. 人文その他の特性景観

渡名喜島には約3,000～3,500年前の沖縄貝塚時代前期の東貝塚をはじめ、その他6カ所の遺跡がある。このうち里遺跡からの出土物にはグスク時代の土器を中心として13世紀から14世紀の輸入陶磁器、鉄製品などがある。

渡名喜島は、琉球王府時代には栗国島とともに久米島の管轄下にあり、養蚕のための桑の生産地として位置づけられていた。当時の地割制度の農地跡が現在まで残っている。

明治時代に入ると、1880年（明治13年）廃藩置県の翌年、那覇役所の管轄となり、明治29年には島尻郡に編入された。しかし、翌年から島長制に切り替えられ、島長2代を経て、一時慶良間列島制度に編入されたこともあったが、明治41年から村制となった。

この明治期には、他の離島と同じく渡名喜島にもカツオ漁業が導入され（明

治37年)、活況を呈していた。また、養豚、養蚕でもよく知られていた。

さらに昭和初期には南洋諸島まで進出したが、昭和20年の沖縄戦でカツオ漁は中断され、戦後一時復活したものの、やがて過疎化とともに衰退した。

このため、戦後の昭和25年頃には1,500人ほどいた島の人口も年々減少し、昭和50年の国勢調査では721人、昭和60年には529人と減少した。しかし、近年は若者のUターンなどがあり、平成2年国勢調査では560人と増加傾向に転じており、平成7年の国勢調査では616人となっている。

渡名喜島の民俗文化は、おおむね沖縄本島と同様な範疇にあるが、長い間、地理的、歴史的に他の地域と隔絶された離島であったため、伝統的な行事や生活習慣、方言等の名称や形態等に沖縄本島とは若干異なった地域的な特性がある。

特に沖縄本島の各地で行われている「門中」による「清明祭」に類似する行事として、2年に1回「シマノーシ(タウン)」という行事があることがその典型例として挙げられよう。また、沖縄本島の各地で行われている「綱引き」を渡名喜島では「カシキー」と称している。ハーリー、アブシバレー等は、本島とほぼ同じ名称、内容である。

(2) 利用の現況

渡名喜島の道路は、県道が25m、村道が9.2km、総延長は9.2kmでそのうち舗装部分は1.9kmとなっており、舗装率は20.2%である。

定期船は、那覇・久米島間のフェリーくめじまとフェリーなはが1日1回（泊～兼城港）、また、5月から6月、9月から10月の4ヶ月間は、高速船ブルースカイが土日のみ1日1回（泊～真泊）運行している。

その所要時間は、フェリーくめじま、フェリーなはが、那覇・渡名喜間約2時間、渡名喜・久米島間約1時間半で、高速船が那覇・渡名喜間約1時間、渡名喜・久米島間約40分となっている。

保健休養施設として認められるものは、東の浜海水浴場、全国植樹祭記念の森、里展望台があり、衛生施設としては、県立那覇病院附属渡名喜診療所、保健婦駐在所がある。

教化施設として認められるものは、中央図書館、歴史民俗資料館、婦人生活改善研修所がある。

渡名喜島には、現在民宿が3軒あり、その収容能力は合計60人である。

渡名喜島へ訪れる年間の観光入込客数は、平成5年度で2,802人であった。その季節別内訳は下表のとおりである。なお、観光の利用交通手段は定期船のみである。

表1. 観光入込客数

単位；人

| 昭和 | 平成5年（平5年3月～平6年2月） | | | | |
|-------|-------------------|-----------|------------|------------|-------|
| | 春 3～5月 | 夏 6～8月 | 秋 9～11月 | 冬 12～2月 | 合計 |
| 1,000 | 667 | 847 | 658 | 630 | 2,802 |

「離島関係資料」平成8年3月沖縄県企画開発部

(3) 社会経済的背景

ア. 土地所有別

渡名喜村の全面積374haのうち、公有地は148ha(39.6%)で、民有地は226ha(60.4%)である。

このうち、民有地では原野が最も多く、民有地のうちの約78%を占めている。

表2. 土地所有の状況

単位；千㎡

| | 畑 | 宅地 | 山林 | 原野 | 雑種 | その他 | 合計 |
|-----|-------|-------|-------|---------|------|-------|---------|
| 民有地 | 129.2 | 115.3 | 254.0 | 1,761.1 | 0.9 | 0 | 2,260.5 |
| 公有地 | 0.3 | 5.2 | 218.6 | 714.7 | 23.7 | 517.7 | 1,480.2 |
| 合計 | 129.5 | 120.5 | 472.6 | 2,475.8 | 24.6 | 517.7 | 3,740.7 |

「市町村行財政概要」34集(平成3年沖縄県地方課)

イ. 人口および産業

渡名喜村の平成7年国勢調査人口は616人で、前回調査(平成2年)に比較すると56人の増加(増加率10%)となっている。

昭和25年から35年までの国勢調査では1,500人前後で推移していたが、昭和50年から1,000人台を切り、昭和60年までに529人にまで落ち込んだ。しかし、平成2年には青年層のUターンにより、560人と増加傾向に転じ、平成7年国勢調査人口は616人となっている。

表3. 人口・世帯数の推移

単位；戸、人

| 年次 | 世帯数 | 人口 | | | 対前年 増加率 (%) | 備考 |
|-------|-----|-------|-----|-----|-------------------|----|
| | | 総数 | 男 | 女 | | |
| 昭和35年 | | 1,485 | | | -3.4 | |
| 昭和40年 | | 1,247 | | | -16.1 | |
| 昭和45年 | 265 | 1,004 | 493 | 511 | -19.5 | |
| 昭和50年 | 232 | 721 | 330 | 391 | -28.2 | |
| 昭和55年 | 235 | 609 | 287 | 322 | -15.5 | |
| 昭和60年 | 220 | 529 | 242 | 287 | -13.1 | |
| 平成2年 | 241 | 560 | 297 | 281 | 5.9 | |
| 平成7年 | 307 | 616 | 367 | 249 | 10.0 | |

「国勢調査」平7年

渡名喜村の平成7年産業別就業者数は合計342人で、その構成比は、第1次産業29.6%、第2次産業36.3%、第3次産業34.5%となっている。

これを昭和50年以降の推移でみると、第1次産業の、特に農業が3分の2に激減しているのに比べて第2次産業の建設業が増加し、第3次産業はほとんど変化はないことがわかる（表4参照）。

また、産業別生産額では、平成5年度は15億1千4百万円で、昭和60年に比較すると、6億3千2百万円（増加率約72%）となっている（表5参照）。

表4. 産業別15才以上就業者数

単位；人

| 産業分類 | 昭50年 | 昭55年 | 昭60年 | 平2年 | 平8年 |
|--------|------|------|------|-----|-----|
| 第1次産業 | 167 | 98 | 164 | 67 | 100 |
| 農業 | 85 | 52 | 118 | 35 | 51 |
| 漁業 | 82 | 46 | 46 | 32 | 49 |
| 第2次産業 | 3 | 29 | 22 | 37 | 124 |
| 鉱工業 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 製造業 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| 建設業 | 2 | 29 | 22 | 36 | 124 |
| 第3次産業 | 123 | 127 | 114 | 122 | 118 |
| 卸・小売 | 20 | 12 | 15 | 18 | 14 |
| 金融・不動産 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 運輸・通信 | 11 | 11 | 6 | 6 | 8 |
| 電気ガス水道 | 5 | 6 | 5 | 7 | 7 |
| サービス業 | 26 | 33 | 38 | 40 | 45 |
| 公務 | 61 | 65 | 50 | 51 | 44 |
| 合計 | 293 | 254 | 300 | 226 | 342 |

国勢調査

表5. 産業別大分類別純生産額

単位；百万円

| | 第1次 | 第2次 | 第3次 | 帰属利子 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|------|-------|
| 昭和60年 | 188 | 251 | 470 | △27 | 882 |
| 平成2年 | 195 | 353 | 627 | △34 | 1,141 |
| 平成5年 | 128 | 717 | 726 | △56 | 1,514 |

「沖縄県市町村民所得統計」（平成8年沖縄県統計課）

産業の基幹である漁業と農業の内容をそれぞれ概観してみると、以下のとおりである。

水産業では小型船による沿岸漁業が中心で、近年はパヤオ漁やソデイカの漁具漁法が導入され、さらにはシャコ貝の稚貝放流、ヒトエグサ（アーサ）の栽培漁業も定着しつつある。

農業では渡名喜島の特産品であるモチキビをはじめ、島人参、大根、トウガン、ニンニク等の生産が行われているが、農業就労者の高齢化が進んでいるため、現在農業基盤の整備を進め、若者が魅力をもって働ける産地形成を目指している。

また、農水産物の加工施設が整備され、特産品の開発を目指している。

ウ. 権利制限関係

(ア) 森林、保安林

渡名喜島の森林面積は、総数が243haで、その全てが民有林であり、同時にその全部が地域森林計画対象地林となっている。

森林のうち保安林は表6に示すとおりである。

表6. 保安林

| 保安林種類 | 面積 (ha) | 備考 |
|---------|---------|----|
| 潮害防備保安林 | 5 | |
| 合 計 | 5 | |

沖縄の林業平成7年度版 沖縄県農水部林務課

(イ) 鳥獣保護区

渡名喜島に鳥獣保護区はない。

(ウ) 指定文化財

渡名喜島における指定文化財は、村立歴史民俗資料館（老人福祉センターと併設）前のフクギ群とカーシリのヌーチュヌーガ御獄があり、国指定の天然記念物等は沖縄全県で指定されているものである。

表6. 指定文化財一覧

| 種 別 | | 名 称 | 位 置 | 指定年月日 |
|-------|-----|-----------------------|--------------|-----------|
| 天然記念物 | 村指定 | 渡名喜番所渡名喜小 学校跡のフクギ群 | 字渡名喜 1935 | H4. 3. 29 |
| 史 跡 | 村指定 | カーシリのヌーチュ ヌーガ御獄 | 字呼子 4588 | H5. 6. 14 |

「国・県及び市町村指定文化財一覧表」(平成7年・沖縄県教育委員会)

(エ) 海岸保全区域

渡名喜島の海岸保全区域は表7に示すとおりで、延長1,908mの海岸保全区域が指定されている。

表7. 海岸保全区域等一覧

| 区 分 | 位置 | 規 模 | 指定日・番号 | 備考 |
|---------|----|------|-------------------|----|
| 水産庁所管 | 字西 | 978m | S50. 2. 28(360号) | |
| 建設省所管 | 字東 | 485m | S52. 2. 28(97号) | |
| 構造改善局所管 | 字東 | 445m | S50. 11. 5(3号) | |

「沖縄県海岸保全管内図」(平成8年・沖縄県河川課)

(オ) 漁港区域

島の西側海域が渡名喜漁港の漁港区域に指定されている。

表8. 漁港区域

| 区 域 | 位 置 | 備 考 |
|----------------|-----|-----|
| 農林省所轄漁港区域(県管理) | 渡名喜 | |

沖縄県農林水産部漁港課

3 公園区域

県立自然公園の公園区域を次のとおりとする。

表 8. 公園区域表

| 市町村名 | 区 域 | 面積 (h a) |
|-------------|---------|----------|
| 島尻郡 渡名喜村 | 渡名喜島の一部 | 342 |
| 地先海面 | | 1,260 |
| 合 計 | | 1,602 |

